

## 令和6年度 自己評価書及び学校関係者評価書

令和7年(2025年)2月13日

## I 学校教育目標

## 『気づき 考え 実行する生徒』

～思いやりの心をもって～

## II 目指す生徒像

&lt;芸術の森から未来を拓く子ども&gt;

- 1 自らすすんで学び方を身に付け、自信をもって発信できる生徒(知)
- 2 多様な価値を認め、相手を思いやるやさしさをもつ生徒(徳)
- 3 自分を大切に、たくましい心と体をつくる生徒(体)

## III 学校経営の基本方針

- 1 未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する教育課程の編成と実施 <知>
- 2 人間性豊かな心を持ち、社会で生きる力を身に付けた生徒の育成 <徳>
- 3 健やかな心身の育成に向けた健康・安全教育の推進 <体>
- 4 生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進 <学びの支援>
- 5 同僚性に基づいた協働体制の構築と教職員の資質・能力の向上 <協働・研修>
- 6 開かれた、信頼される学校の創造 <家庭・地域>

## IV 自己評価結果及び学校関係者評価

A・・・十分である B・・・おおむね十分である C・・・不十分である

分野	評価項目	今年度	学校関係者評価		
			自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
1 学校運営	学校教育目標、重点に基づき、生徒が生き生きと学校生活を過ごせる学校づくりに取り組んでいる。	A	○生徒アンケート「目標をもって学校生活を送っている」が82.8%(R6夏82.5%、R5年度84.1%)で、大きな変動は見られないが、各学年、学期ごと自己目標を意識させる取組も行い、生徒の目標意識は安定しており、意欲的に過ごしていると捉えている。 ○生徒アンケート「私は普段から仲間や自分のことを大切にしたいと考えている」が99.5%(夏98.4%、昨年度96.2%)で、自分や仲間を大切にしている意識が更に向上した。後期は学校祭や総合学習の取組を通して団結や協力の意識も高まり、個人や集団の関係性が強化されたと思われる。また年3回の教育相談も心のケアに寄与していると思う。	A	A
	教育活動全般を通して、自己肯定感や自己有用感を高める指導を行っている。	A	○「心のこもった挨拶を大切にしている」については、生徒アンケート93.2%(夏89.4%)、関連項目の保護者アンケート94.3%(夏95.1)、地域アンケート93%と、昨年度若干であるが生じていた差がなくなった。夏から冬にかけての生徒の意識の差は、学校生活全般を通じてコミュニケーションの活発化が自然に図られ、周囲への安心感、信頼感が増したものと前向きに捉えたい。	A	A
	「心のこもった挨拶を大切に生活する」指導に努め、生徒、保護者、地域に浸透している。	A	○挨拶や礼儀については、大人側からの声掛けも大切にしながら学校地域全体で手本となるような言動を示していけるとよいと思う。	A	A
学校関係者評価委員による意見	毎朝気持ちの良い挨拶ができている(小学校の見守り状況から)／校内や地域での挨拶は浸透していると思う、自己肯定感や自己有用感の育成にはゲストティーチャーを活用した取組が功を奏していると思う／「普段から仲間や自分のことを大切にしたいと考えている」ほぼ全員の生徒が感じているのはとても良い。こころの教室の生徒、教室の生徒とのやりとりからも感じている。挨拶も普段の学校生活の中でも元気よくしてくれている。				

学習指導	4	生徒一人一人の個性や能力が生かされ、学びの喜びを感じさせる指導が展開されている。	A	○生徒アンケートの「毎日の授業を真剣に受けようとしている」については95.9%(昨年度91.8%)、「先生方は熱心に授業をしてくれる」については98.2%(昨年度95.2%)、「わからないことを聞いたときに先生方は丁寧に対応してくれる」については97.7%(昨年度95.7%)と高い水準で更に向上した。生徒教師間の信頼関係の充実や、地道な取組により学習に前向きな生徒が増えたと捉えている。	A	A
	5	各教科で評価や評定を正しく行い、通知表などを通して生徒や保護者にわかりやすく伝えている。	A	○保護者アンケート「学校は子どもたちを適切に評価しようとしている」は91.1%(夏95.1%、昨年度88.8%)、「あまりあてまはらない」が9%であった。今年度は小学校との合同研修会で双方の評価について学び考える時間をもった。生徒・保護者が納得し、学習改善に繋がられる評価を行えるよう、研鑽を続けたい。	A	A
	6	複数教師(TT)による指導が計画的に行われ、効果を上げている。	A	○生徒アンケート「TTは私の役に立っている」が82.1%(夏74.0%、昨年度63.6%)と改善したが、一方で「まったくあてはまらない」という回答が18.0%(昨年度16.5%)あった。サポートを必要としながらもそれを得られていない生徒の存在に気付いていく必要がある。教員の役割分担、TTの工夫が引き続き課題である。	A	A
	7	道徳的価値を自分とのかかわりで捉え、行動へとつなげていけるような心に響く道徳教育の実施に努めている。	A	○時代や生徒の状況に合わせて、子どもたちの心に響く、自分ごととして考えられる「道徳」「総合的な学習の時間」の推進を継続していきたい。道徳に対する役立ち感については88.7%(夏85.4%、昨年度81.9%)と向上した。長らく継続している総合的な学習の時間における取組においても「卒業後や将来に役に立つと思う」と考える生徒がここ数年80%台であったのが90%に達した。	A	A
	8	総合的な学習の時間のねらいを達成するため、学年に応じた指導内容の工夫・充実を図っている。	A		A	A
学校関係者評価委員による意見		生徒アンケートに前回以上の前向きな学習の取組が見られる。／小中の合同研修会で「評価」についての意見交流を行うなどして、小学校・中学校間での子ども理解を深めることができたと感じている。／複数教師による指導は、個人に応じた指導や、複数の目で個人の良さや課題が多角的に見え、個性の伸長につながると思う。／生徒と先生の信頼関係がこのアンケートで分かる。その一方でTTのところ…。少ない先生たちの中、また多忙な中でなかなか手が回らない現状もあると思う。				
生徒指導	9	基本的な生活習慣の体得、集団生活の役割や規律の遵守に努めた生徒指導が展開されている。	A	○生徒アンケートの「先生は生徒の間違った行動に対して適切に指導している」の設問に対しては95.5%(夏95.1%、昨年度90.9%)保護者91.7%(昨年度88.1%)と高い位置で更に伸びた。「困ったり悩んだりしたときは、先生方と相談できる機会がある」の設問に対しては.92.3%(夏89.4%、昨年度80.0%)保護者91.7%(夏90.0%、昨年度91.7%)が肯定的であった。	A	A
	10	命の大切さを実感させ、「いじめ」が起きないような学校作りに取り組んでいる。	A	○「先生方はいじめや暴力が起きないように取り組んでいる」においても95.5%と高い。生徒教師間の信頼関係作り、教師間の連携も出来ていたのではないかと思います。今年度からは月に1回いじめ防止対策委員会を行っており、学年をまたいで情報の共有、事例ごとの対応の確認や相談を行っている。今後も緊張感をもって相談活動に取り組み、事が起きた際には迅速な対応を行っていききたい。	A	A
	11	教育相談の充実や校内学びの支援委員会の活用により、適切かつ効果的な指導を推進している。	A		A	A
	12	進路指導に関する的確な情報や相談がなされている。	A		A	A
学校関係者評価委員による意見		相談できる相手に先生92.3%はとても評価できる。／文科省はいじめの原因として「不満やストレス」を挙げている。本人の不満やストレスの思いが強いと思う。学校の対応に期待している。／このアンケートでも信頼関係が分かる。この関係性を続けてほしい。				

13	特別活動	生徒が学校行事に積極的に参加できるような企画・運営を行っている。	A	○生徒アンケートの「学校行事や生徒会行事に積極的に楽しく参加している」については、95.7%（昨年度89.1%）保護者92.9%（昨年度90.7%）と上がった。やる気を引き出し生徒が大きく成長できる行事を、教育活動に十分に生かせるよう学校全体で取り組んできた成果と考える。今年度は保護者の参観を復活できたことも効果をあげた。さらに達成感や成就感が得られるよう努めていきたい。	A	A
		生徒会活動の組織的機能を活用し「生徒主役」の具体化を図っている。	A		A	A
学校関係者評価委員による意見		学校行事に積極的に参加できているというアンケート結果は、保護者の参観の復活とともに、コロナ以前の活動が戻っていることが分かる。／生徒会の選挙の際、何人かの候補者が上がり意見の交流などが行われると「選挙」に対する理解が深まると思う。／生徒が学校行事に積極的に参加している様子を見ている。生徒自身が成長していることを実感している。／コロナ禍から今までと変わらないぐらいの生活に戻りつつあり生徒たちも生き生きと活動できるようになったのかなと思う。				
15	学校信頼の創造	学校行事やPTA活動を通して、学校・保護者・地域との一体化に努めている。	A	○学校行事やPTA活動においては予定通り開催できた。月に1回の学校公開を設定した。行事や発表のない平常の日の保護者の来校は日に1～2名ほどで多くはなかったが、今後も継続したい。地域アンケートからは「学校は保護者や地域の人たちと交流する機会を多く設けている」が79%で、「あてはまらない」が21%（内「判断できない」が7%）いるが、回答者（母数）も少ないため否定的意見は実質2名である。「常盤中ではPTA活動が活発に行われている」は77%（昨年度66.7%）と回復傾向にあることなどから、来年度も今年度並みの活動で継続していきたい。 ○総合的な学習の時間では、ここ8年地域の教育力を生かした取組を行っている。引き続き地域と連携し、子ども達が自分の住む社会に目を向けられる活動を継続したい。 ○「学校だより等の配布物やホームページで、随時情報を提供している」について、保護者アンケートでは94.1%（夏97.5%）と今年度も肯定的であった。今後も、積極的な情報発信を継続したい。	A	A
		学校便りをはじめとした各種便り、ホームページなどを活用して、積極的に情報発信を行っている。	A		A	A
学校関係者評価委員による意見		PTA活動が回復傾向とのことですが、今後も活動を継続していただきたい。／学校だよりを毎回見ている。学校の様子がよくわかる。／総合学習において地域の町内会長さんたちのアドバイスのもと進められている学習がありますが、若者の意見も新鮮かつ求められていると思うので、地域の高校生や大学生の参加もあってよいのではないかと。／これからのPTA活動は課題があったりするかもしれませんが、地域とのやりとりなどを大事にしてほしい。また配付物がなかなか親の手元に行かないこともあるのでHPでアピールしたらどうか。／横断歩道についての指導は今後も課題が残る。				

#### V 自己評価書に対する総合評価

ゲストティーチャーで生徒と接したとき、先生と生徒の関わりの様子や生徒の積極的な発言に、生徒と先生の信頼関係が良いことがうかがえ、明るい校風が感じられた。学校運営についても様々な角度から検討されている点がよく理解できた。多忙な中、この評価は素晴らしいといえる。